

平成23年東北地方太平洋沖地震 宮城県周辺ヘリ調査（砂防）

調査日時：平成23年3月12日(土) 8:30～18:00

○ 天然ダム

- ・平成20年に出現した岩手・宮城内陸地震による15の天然ダム箇所については、その安全度において変化は認められなかった。
- ・唯一、湯浜地区の既崩壊斜面において比較的新しい、極く薄い表層の崩落が認められたが、特段、対応を要するものではないと判断される。
- ・周辺の地域においても、規模の大きな崩落等は見あたらなかった。

○ 女川町

- ・女川町の市街地部は、津波によって壊滅的な状況であったが、特定利用斜面保全事業によって造成した避難地は、津波の直撃を逃れていた。

○ その他

- ・海岸沿いの状況は、茨城県北部から宮城・岩手県境までの範囲で、ヘリから見る限り殆どの区間で、港湾施設、海岸施設、河口部堤防、道路、住宅等、あらゆる都市施設が海岸線から500m～数kmの範囲で「激甚」というよりは、「壊滅的」というべき被害を受けています。
- ・内陸部は、直下型ではなかったせいか、震度のわりには被害が限定的になっているような印象です。



写真－1 栗駒山頂付近（斜面崩壊等の大きな土砂移動現象は見られない。）



写真－2 荒砥沢ダムとその背後の地すべり地



写真－3 湯浜天然ダム箇所（写真下側が既崩壊箇所で、表層の崩落は見られるが、軽微。）



写真－4 湯ノ倉天然ダム箇所



写真－５ 産女川天然ダム箇所



写真－６ 女川町市街地部（写真中央の台地部は特定利用斜面保全事業箇所で津波時の避難スペースを確保した場所で、津波の直撃を免れている。）



写真－7 仙台市付近の海岸部（新興住宅団地と思われるが、木造住宅は基礎を残して流失している。）



写真－8 北上川河口付近